

温暖化対策技術調査検討ワーキンググループの開催について

1. 背景、趣旨

地球温暖化は、21世紀においても人類が繁栄を持続させるために取り組まなければならない地球規模の環境問題であり、その抜本的解決には科学技術の貢献が不可欠である。地球温暖化問題の重大性・緊急性に鑑み、総合科学技術会議では、2030年頃までを念頭に重点的・加速的に取り組むべき技術課題を研究開発推進戦略としてとりまとめた「地球温暖化対策技術研究開発の推進について」を平成15年4月に決定し、関係大臣に意見具申した。

一方、最近の地球温暖化にかかる国内外の動向を見ると、我が国では、2月16日に京都議定書が発効したことを受け第一約束期間(2008年～2012年)における目標達成に向けた対策が急務となっているほか、国際的には、第一約束期間以降の国際的な地球温暖化対策の枠組について、本年秋にも検討が開始される見込みである。また、地球温暖化対策技術については、自動車の燃費改善や家電の省エネ化、太陽光発電の普及、定置用燃料電池の販売開始など一定の進捗が見られる。

こうした状況を踏まえ、総合科学技術会議では、先述の研究開発戦略をフォローアップし、必要な見直しを行い、2030年頃までに実用化が期待される温暖化対策技術について、今後5年から10年程度の政府の取り組みに関する基本戦略を示すこととする。

なお、本検討での対象とする温暖化対策技術は、京都議定書に規定する温室効果ガス6種の発生抑制に貢献するものとし、森林吸収は含まない。また、原子力に関しては、今後の研究開発のあり方について原子力委員会で検討が行われているところであり、本ワーキンググループにおいて詳細な検討は行わない。

2. 名称及び位置づけ

上記基本戦略を検討するため、総合科学技術会議重点分野戦略専門調査会環境研究開発推進プロジェクトチームの下に「温暖化対策技術調査検討ワーキンググループ(以下、WG)」を開催する。

3. 検討事項

WGでは以下の事項を実施する。

技術課題の抽出、実現可能性の評価

「地球温暖化対策技術研究開発の推進について(平成15年4月総合科学技術会議)」や最近の研究開発の動向をふまえ、温室効果ガス排出削減技術として今後取り組むべき技術課題を抽出する。その際、実用化時期と開発目標を明確化するとともに、技術的な実現可能性も評価する。また、健康や環境への影響(リスク)や規制など普及にあたって留意すべき事項も整理する。

温室効果ガス排出量の削減ポテンシャルの評価

各技術課題の温室効果ガス排出量の削減ポテンシャルを2015年頃と2030年頃に分けて評価する。

重要性の評価

上記の および の検討を総合的に勘案し、技術課題毎に重要性を評価する。

研究開発の進め方、普及施策の検討

各技術課題にかかる研究開発が効果的かつ効率的に進むための推進方策、及び成果の円滑な普及を図るための施策について検討する。

4. 検討スケジュール

6月22日	第1回WG会合
7月～8月	第2回、第3回WG会合 (各メンバーから、今後取り組むべき技術課題に関して意見。)
10月	第4回WG会合 (検討事項 ～ に関する作業チームでの検討結果を紹介し、議論)
11月～12月	第5回、第6回WG会合 (検討結果のとりまとめ)

5. WG構成メンバー及び事務局

WGのメンバーは別紙の通りとする。会合への参加が困難な場合には、メンバーの意を受けた代理者が会合に出席できる。

WGの主査及び副主査は薬師寺議員が推薦し、メンバーの同意を持って決定する。

WGの事務局は総合科学技術会議事務局環境・エネルギーグループが担当する。

6. その他

WGは公開とする。議事要旨は発言者の確認を取った上でWG資料として公開する。

精査が必要な場合には、WGの下に作業チームを設けることができる。